

令和6年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」 受賞作品(作文)

兵庫県治水・防災協会会長賞 【中学生の部】

『早めの備え、早めの避難』

関西学院中学部 二年 新田 彩羽 さん

毎年、台風や梅雨、線状降水帯により土砂災害が発生したニュースをよく見かけます。天気予報で「数十年に一度の大雨」というキーワードを耳にしたこともありません。テレビで家が流され、倒壊している様子を見ると、土砂災害による被害はどれだけ恐ろしいものなのか一目で伝わってきます。毎年様々な場所で土砂災害は発生していて、多くの被害者が出ています。私は実際に土砂災害を経験したことがないので画面から伝わってくる怖さしか分かりません。

自然災害は簡単に人の命を失ってしまうほど恐ろしいものと知っていても、まさか自分が災害に巻き込まれるとは思ってもいない人がほとんどだと思います。だから大丈夫だと思い込んで、災害に関する問題から目を背けることもあるのではないのでしょうか。小学生の頃までは私も自分が住んでいるところは安全だと思っていたし、災害を身近に感じていませんでした。でも趣味であるハイキングに行ったとき、災害の規模の大きさは実際に起きてみないと分からないことや自然の力の凄さを体で実感しました。私が行ったハイキングコースはたくさんの植物が生え、自然豊かな素敵なおとろけ所でした。でも三、四ヶ月前の大雨により橋が流されたり、その近くの山では被害を受けた場所もあったそうです。写真で見たときはある程度の高さのある橋で、まさか大雨で橋の高さまで水が到達し、橋が流されるとは思えませんでした。何もなかったかのように思っていたけれど、数ヶ月前まではここまで水に浸かっていたと思えば、全く信じられませんでした。私のようにここで災害が起こるなんてあり得ないと思ひ込み、油断して手遅れになり逃げ遅れるケースも少なくないと思います。そうならないようにするためにも日頃から土砂災害についての知識を増やし、備える必要性を感じました。

備えることは、個人と全体でできることがあると思います。まず全体でできることは、土砂災害防止のための設備を作り、安全に効率良く避難するための備えが挙げられると思います。土砂災害は土石流や地すべり、がけ崩れ、河道閉塞などの種類に分けられ、大雨のときだけでなく、地震により起こることもあります。災害の種類によって特徴や発生の要因、被害のもらし方が異なるため、それらをきちんと知った上でその地域に適した対策をすることが大切だと思います。土砂災害を防ぐための施設は砂防ダムや透過型砂防堰堤、溪流保全工、山腹工などがあります。これらの設備がないときと比べると大きく違い、日本では昔から砂防堰堤が作られていました。そのためこれまでも多くの人の命を救っています。地域の人々の命を守るた

めにもこれらの設備を作ることは重要だと感じました。

また、避難経路の確認や高齢者の避難方法のシミュレーションをあらかじめしておくことも大切です。災害が発生したとき、パニックになりかねません。落ち着いて冷静に行動するためにも必要なことだと思います。

次に個人でできることは、避難時の持ち物を用意することです。近年は非常食も様々なものがあり、非常時に便利なグッズもたくさんあります。必要なものを最低限にしたいからこそ、余裕を持ってあらかじめ準備しておくといいと思います。それは避難生活を送ることになったとき、家族はどんなものが必要になるのか普段の生活を基本に考えることができるからです。それらを理解した上で取捨選択することで非常時も普段の生活に近い状態で暮らすことができるそうです。

日本は山が多く自然豊かなところであるからこそ土砂災害も起きやすく、毎年大勢の方が被害にあわれています。でも少しでも辛い思いをする人を減らしたいという気持ちがあったからこそ土石流などに備えた設備が発展し、非常食の開発も進んだのだと思います。これからも一人でも多くの土砂災害の被害者を減らすために前へ進んでいきたいです。そして日本全体が協力して、災害に関する意識を向上させていけたらいいなと思いました。

『土砂災害をやって』

宝塚市立安倉小学校 六年 石塚 瑠樹 さん

学校で土砂災害のことを勉強して
広島県坂町でおこった土砂災害がおこって町に木や土砂が町にながれてきました。歩く道や車が通るところが消えてしまいました。山の近くの住宅に土砂が流れ大きなひがいになりました。川の水が増し道路がかんぼつしてしまいました。この災害でこわれた物、家、道路などがこわれてしまいました。市や県は復興のために国にたより、税金をもらい町を復興させました。

土砂災害のこわさ

土砂災害は大雨でおこる災害のことです。さっきの広島県坂町でおこった災害も土砂災害です。土砂災害のひがいが大きいのは山の近くで土砂がながれてきて水道やガス、電気がとまる可能性が高いです。土砂災害で県がかりるお金のりょうは1兆円

土砂災害をふせぐ方法

まず砂防ダムの建せつをすることです。これを建せつをすれば土砂をふせいでくれます。あとこの砂防ダムは町の近くに建せつされていてすこしでも町に土砂がながれていかないようにするダムです。次はひなん路についてです。ひなん路は土砂災害があつた時に安ぜんにひなんできるための道路です。雨水排水しせつは土砂災害は大雨でおこる災害です。大雨で山からおりてくる水が町にひがいをおよばせないようにするために、雨水排水しせつを建せつをしました。

住宅の再建について

土砂災害で家をつぶされますが家がこわれた時の写真をとっておけば国や県、市がゆうせんできに家を再建をしてくれます。り災証明書といいます。広島市安佐南区にあ「モンドラゴン」このお店は地域の人たちがつくれた復興交流館です。この「モンドラゴン」という店は昔広島でおきた災害を話してくれます。土砂災害のおそろしさをつたえて昔広島でおきたことをいろんな人に知ってほしいと思います。

インターネットで調べたこと

土砂災害にはがけ崩れ、(急傾斜地の崩かい)、土石流、土砂災害には3種類あります。今日は土石流を調べました。土石流は、山や谷の土砂や岩石などが、つゆや台風期の長雨や集中豪雨によって水と一体になり、一気に下流へと押し流されるものをいいます。その流れ速さは時速20～40kmという速度で一しゅんのうちに人家や畑などをかためつさせてしまいます。

土石流の対策

土石流対策は砂防堰堤を設置し、そのまま放置すればきけんのある土砂の流れを抑制、調整して自然になじまでながら無害な土砂の流れにすることで災害を防止しています。

土石流がおきたらどうすればいい？

土石流の場合、土砂の流れる方向に対して直角ににげましょう。がけ崩れの場合は、すぐに山やがけからはなれましょう。

土石流発生の前兆現象

近くで山崩れ、土石流が発生している！ 立木のさける音や大きな岩の流れる音が聞こえる。降雨がつづいているにもかかわらず、溪流の水位が急激に減少し始める。異様なにおい（土臭い、もののやけるにおい、酸っぱいにおい、木のおい等）がする！

土砂崩れのサイン

がけから水が吹き出す。がけからの水がにごる。がけにきれつが入る。小石がパラパラと落ちてくる。がけから音がする。

地崩れ前兆

石がぶつかり合うような、ゴロゴロという音がする。

まとめ

土砂災害にはいろいろなしゅるいがあり前兆があり土砂災害のきけんさがわかりました。

『土砂災害防止のために』

関西学院中学部 三年 瓦林 美優 さん

近年、日本国内で発生する土砂災害の被害が増加しています。豪雨や地震などの自然災害が原因で、山間地や河川周辺などの地域で頻繁に発生しています。土砂災害は人命や財産に大きな被害をもたらすため、その予防は非常に重要です。

土砂災害の予防には、まず土地利用計画の見直しが必要です。特に山間地や河川周辺などの危険な地域では、住宅や建築物の建設を制限する必要があります。また、河川の流れや地形を考慮した土地利用計画を考えて、安全な場所に住宅や施設を建設することが重要です。さらに河川の流れを変えないような工事や河川の整備を行う必要があります。

また、土砂災害の予防には適切な警戒体制の整備も重要です。気象庁や自治体などが豪雨や地震などの情報を正確に伝えることで、住民は適切な避難行動を取ることができます。さらに、適切な避難場所や避難経路を設置し、住民が迅速かつ安全に避難することができるようにする必要があります。

さらに、土砂災害の予防には地盤の安定化も重要です。地震や豪雨などの自然災害によって地盤が緩んだり、崩れたりすることがあります。そのため、地盤の調査や補強工事を行うことで、地盤の安定化を図る必要があります。また、河川の氾濫を防ぐためには、堤防やダムなどの整備も重要です。これらの施設を適切に保守・管理することで、土砂災害の発生を抑えることができます。

土砂災害の予防には住民の意識改革も不可欠です。土砂災害に対する知識や情報を普及させることで、住民は自己防災意識を高めることができます。特に、危険な地域に住む人々は、土砂災害に対する適切な対策や行動を身につける必要があります。また、学校や地域のイベントなどを通じて、土砂災害について学ぶ機会も大切です。

さらに、土砂災害の予防には国や自治体の支援が必要です。土砂災害対策のための予算や人材を確保し、対策の推進を図る必要があります。また、国や自治体が住民と連携し、地域ごとに適切な対策を策定することも重要です。さらに、土砂災害に対する研究や技術の開発も進める必要があります。地震や豪雨の予測技術や防災施設の開発などを進めることで、土砂災害の発生を予防することができます。

また土砂災害を防止するには以下のことが必要だと思います。危険な地域での住宅や建築物の建設を制限し、安全な場所に建設するようにする。地形や河川の流れを考慮した計画を策定する。河川の流れを変えないような工事や、河川の堆積物やゴミの除去を行う。また、河川の流路や堤防の強化を行い、洪水時の土砂の流出を防止する。豪雨時に土砂の流出を防止するため、排水施設の整備や都市計画の見直しを行う。また、浸透力の高い地盤の整備や、雨水の貯留施設の設置なども行う。土砂災害の発生が予測される地域では、モニタリングシステムや警戒体制を整備する。地震や豪雨などの情報を的確に把握し、早期警戒や避難指示を行うことで

被害を最小限に抑える。土砂災害への対策や避難方法についての教育や啓発活動を行う。地域の住民や学校での防災教育を通じて、災害のリスクに対する認識を高める。地域の連携や国民の協力を求めるため、防災意識の高揚と地域全体での取り組みが不可欠です。